

## 『アジア体験』コンテスト 実施要項

2015/03/27 生駒知基

私は「害獣として駆除されているスマトラゾウに対する人々の意識調査と解決策の模索」というテーマでインドネシアに赴き、調査を行ってきました。以下に具体的な実施要項、調査内容、改善策の揭示、決算、感想について示していきます。

### A 具体的な実施要項

3 月 12 日から 23 日にかけてインドネシア・スマトラ島のリアウ州に行き、現地で活動している国際 NGO、WWF の主催するエコツアーに参加して自然保護の実態を調査した後、近隣の村で聞き取り調査を行いました。リアウ州はインドネシアの中でも森林伐採の被害が大きく、世界でも有数のスピードで森林がなくなっています。Tesso Nilo (テッソニロ) 国立公園で WWF が活動しており、近隣には (今回訪れた) Lubuk Kembang Bunga を含めて多くの村が点在しています。Lubuk Kembang Bunga では、村長の家に 5 日ほど滞在し、現地での生活を体験したのみでなく 30 件ほどの家をまわり、通訳を介して聞き取り調査を行いました。WWF のエコツアーで学んだこと、村での聞き取り調査で学んだことについては下の B 調査内容で詳しく見ていきます。

### B 調査内容

#### 【WWF のエコツアー】

WWF のエコツアーで、現地で自然保護に携わっている方の話を聞きました。彼は毒殺されたゾウの姿を何度も見ており、スマトラゾウ保護プログラムの困難さを身に知ってわかっているようでした。Tesso Nilo 国立公園は野生のゾウが村へと降りてくるのを防ぐためにゾウを訓練し、それらのゾウによって野生ゾウの追い払いを行っているのですが、彼は、ゾウを訓練することは難しいということ、また国立公園内のゾウに関してはある程度制御できても国立公園外にも多数のゾウがおり、それらの制御や国立公園への移動は難しいということを話していました。

#### 【村での聞き取り調査】

Lubuk Kembang Bunga では、通訳を介して 8 つ程度の質問をし、それらの回答から人々の意識を調べようと試みました。質問内容としては、

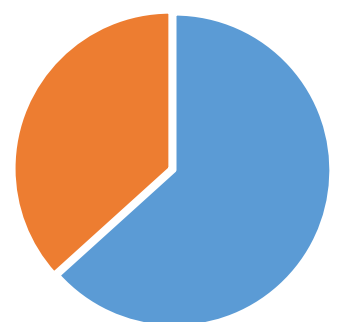
- ・アブラヤシ栽培におけるスマトラゾウの被害
- ・スマトラゾウ保護プロジェクトに関して賛成、反対どちらの意見であるか
- ・これまでに環境について学校で学んだことはあるのか

などといったことがありました。

30 件を回って聞き取り調査をした結果、スマトラゾウ保護プロジェクトに賛成する人、反

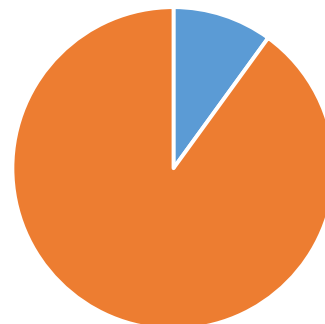
対する人はそれぞれ 10 人、11 人いて人々の意見は大きく分かれているということがわかりました。反対する 10 人のうち現在の生活に満足していると答えた人は 2 人、満足していないと回答した人は 8 人でした。また、賛成する 11 人のうち現在の生活に満足していると答えた人は 3 人、満足していないと答えた人は 8 人で、生活状況がスマトラゾウの保護プロジェクトに対する意見の相違の要因ではないということがわかりました。一方、反対する 10 人のうちこれまで学校などで環境について学んだことがあると答えた人は 1 人（そのような経験がない人が 9 人）で、賛成する 11 人のうちこれまで学校などで環境について学んだことがある人は 7 人（そのような経験がない人が 4 人）で、大きく差が見られました。以上の結果から、自然保護に対する意識の形成にはその人がこれまでに受けた環境に対する教育関わっている可能性が高く、自然保護のためにも今後環境保護に対する理解を深めていくことの重要性を感じました。

スマトラゾウ保護活動に賛成



■ 環境について学んだことがある  
■ 環境について学んだことがない

スマトラゾウ保護活動に反対



■ 環境について学んだことがある  
■ 環境について学んだことがない

### C 改善策の提示

以上の結果をもとに、解決策として考えられることを提示していきます。

#### 【具体的な策】

まず、短期的に効果をもたらすと考えられる策としては、村の周りを柵で囲ったり堀をつくることで、ゾウの被害が軽減すると考えられます。また、村人に利点がないという意見も多かったので、きちんとルールを守っている村人には（金銭など）目に見える形でのインセンティブがあるとよいと実感しました。

#### 【人々の意識改革】

実際に現地を回ってみて、人々の中でもスマトラゾウの保護活動に対し賛成・反対で大きく分かれている（30 人中賛成 11 人、反対 10 人）ことがわかりました。特に反対の人は、

スマトラゾウを駆除したいにも関わらず WWF の活動が邪魔であると語っていた人が多く見受けられました。そのような人々を保護活動に巻き込んでいくことで、大きな進展が見られるように思います。そこで、彼らに対し、自然の重要性などを伝える場を設けることの必要性を感じました。現在、小学校などではそれらを教えているところもあるものの、多くの大人は環境について学んだことがないということ、また、これまで環境について学んだことがあるとスマトラゾウの保護活動に賛成を示す傾向が強いことから、このような対策は有効であると思います。

#### D 決算

格安航空券を入手することができ、決算は以下のようになりました。

航空機代	約	120,000 円
海外保険	約	5,000 円
ホテル宿泊費	約	3,000 円
エコツアー参加費	約	40,000 円
村滞在費	約	12,000 円
交通費	約	15,000 円
通訳費	約	15,000 円

計	約	210,000 円
---	---	-----------

#### E 感想

今回このような形でインドネシアで調査を行うことができ、最も印象的だったのは現地の人々の暮らしを身をもって体験できたということでした。「現地の人々は汚い水を使って生活をしていて、日々の暮らしも大変で、日本は本当にめぐまれている…」よく聞くような言葉ではありますが、それを身を持って実感できたという点で収穫が大きかったように思います。今回の体験は、私の人生の中でも大きなターニングポイントとなるようなものでした。この渡航で学んだことを、これからの大学生活の中でもっと深く掘り下げ、また再び現地に調査に行って村の変化を調べてみたいと思うようになりました。本当に、このような機会をくださった共立国際交流奨学財団の方々に深く感謝しております。最後になりましたが、ありがとうございました。